



▲1997年スプリンターズS(G1)



世界に挑んだ 優駿たち

— Vol.11 —

▼1998年ジャック・ル・マロワ賞(G1)

世界レベルのスピードスター タイキシャトル

1997年のスプリンターズSを制したタイキシャトルは、94年に米国で生まれ、デビュー前の調教はその後渡ったアイルランドで積まれたという根っからの国際派である。

脚部の不安などから出走態勢がなかなか整わなかったため、デビューは3歳の4月と遅かった。しかしその末勝利戦を4馬身差で圧勝すると、次の500万下も快勝。初の芝レースとなるオープンの菖蒲Sも難なく制して3連勝を果たした。続く菩提樹Sこそ2着に取りこぼしたが、ユニコーンSでは他を寄せ付けぬ強い競馬で重賞初制覇を達成した。

こうして本格化したタイキシャトルは、いよいよ芝の短距離路線へと舵を絞った。まず古馬との初対戦となったスワンSを力強く制すると、GI初挑戦となったマイルチャンピオンシップでも逃げたキョウエイマーズを差し切ってさらに突き放す桁違いの強さを見せて圧勝。そして、その余勢を駆って臨んだスプリンターズSでも、単勝オッズ1.9倍という圧倒的な支持に応え、先行・抜け出しの危なげないレースぶりで制したのだった。

タイキシャトルの図抜けた能力に自信を持った陣営は翌年、彼を海外遠征させるプランがあることを表明。ファンの期待も盛り上がった。

その98年。タイキシャトルは始動戦の京王杯スプリングCを楽勝すると、続く安田記念では、大雨のため不良となったタフな馬場をものともせず、力強いフットワークで抜け出して圧勝を果たした。

そしてタイキシャトルは満を持して欧州へと向かう。ターゲットとしたのは「夏の欧州マイル王決定戦」とも呼ばれる、フランスのジャック・ル・マロワ賞である。



ドーヴィル競馬場の直線コースで行われる伝統のマイルG1。タイキシャトルは欧州の大舞台でも1番人気に推されると、好スタートから先行集団でレースを進め、残り400m付近からスパート。パワフルな末脚を繰り出して馬群から抜け出し、追いつかる英国のアマングメンを半馬身抑えて優勝。藤沢和雄調教師と岡部幸雄騎手に念願の海外G1勝手をプレゼントすると、岡部騎手はレース後、喜びのあまり涙を流した。

タイキシャトルは帰国後に出走したマイルチャンピオンシップで連覇を達成。レース当日に引退式を行うという、当時としては異例のプランで臨んだスプリンターズSこそ3着に敗れたが、この年のJRA賞では短距離馬としては初となる年度代表馬に輝いた。そののち顕彰馬に選出されたのは、彼の傑出した実績をもってすれば当然のことであつた。

全成績		中央12戦10勝			海外1戦1勝	
年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
1997. 4. 19	東京	4歳末勝利	ダ1600	1	1:39.0	岡部 幸雄
5. 3	京都	4歳500万円以下	ダ1200	1	1:12.2	岡部 幸雄
6. 8	東京	菖蒲S	1600	1	1:36.5	岡部 幸雄
7. 6	阪神	菩提樹S	1400	2	1:20.9	岡部 幸雄
10. 4	東京	ユニコーンS(GIII)	ダ1600	1	1:36.8	岡部 幸雄
10. 25	京都	スワンS(GII)	1400	1	1:20.7	横山 典弘
11. 16	京都	マイルチャンピオンシップ(GI)	1600	1	1:33.3	横山 典弘
12. 14	中山	スプリンターズS(GI)	1200	1	1:07.8	岡部 幸雄
1998. 5. 16	東京	京王杯スプリングC(GII)	1400	1	R1:20.1	岡部 幸雄
6. 14	東京	安田記念(GI)	1600	1	1:37.5	岡部 幸雄
8. 16	仏	ジャック・ル・マロワ賞(G1)	1600	1	1:37.4	岡部 幸雄
11. 22	京都	マイルチャンピオンシップ(GI)	1600	1	1:33.3	岡部 幸雄
12. 20	中山	スプリンターズS(GI)	1200	3	1:08.6	岡部 幸雄

※レース名は当時の表記による

タイキシャトル 牡 栗毛 1994年3月23日生		
調教師：藤沢和雄 馬主：(有)大樹ファーム		
父 Devil's Bag 1981 鹿	Halo	Hail to Reason
		Cosmah
	Ballade	Herbager
母 Welsh Muffin 1987 鹿	Caerleon	Miss Swapsco
		Nijinsky
	Muffity's	Foreseer
		Thatch
		Contrail